

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 北広島町立新庄小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
所在地 〒731-2103 広島県山県郡北広島町立新庄3497
E-mail shinjo-e@town-kitahiroshima.ed.jp
Website http://www.khiro.jp/shinjo-es/
幼児児童生徒数 男子35名 女子28名 合計63名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～11歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

(1) 活動の概要

当校は、自然、文化の両面において、特色ある地域に立地しており、「地域の宝」が豊かにあるなかで教育活動を行っている。そこで、当校では、「地域に根ざした持続発展教育の充実」を学校理念として、ESDを「学校と豊かな地域をつなぐホットな活動ツール」と捉え、ESDの実践を通して、主に「進んで取り組み、仲間と協力して活動する力」、「②地域とのつながりや地域社会に関わろうとする力」、「③自然とのつながりを感じ、共生しようとする力」の3つの育成を目標とした。

具体的には、「伝統文化」、「環境」、「食育」、「平和・人権」の4つを柱に、①「伝統文化(地域の文化財)」に係わる活動、②「環境教育」に係わる活動、③「食育」に係わる活動、「④平和・人権」に係わる支援活動、の4つを行った。

① 「伝統文化」に係わる活動

(1) 新庄のはやし田・南条踊り(全校児童)

今まで引きついできた、新庄地域の郷土芸能である「新庄のはやし田」や「南条踊り」について、地域の保存会の方から指導を受け演じることや、はやし田

や南条踊りのことを聞き取ったり詳しく調べたりすることを通して、新庄地域の思いや願いを感じ取った。春には、はやし田を演奏しながら赤米の田植えを行った。そのほか、地域へ年6回「はやし田」を披露し発信することで、ふるさを見つめなおし大切にしようとする態度を育てた。

(2) 赤米生き活きプロジェクト（主に第5学年）

地域の古くからの伝統である古代米(赤米)の生産活動や赤米の調査を通して、命をつなぐ“食”について関心をもったり、地域の方の思いや知恵について学んだりした。地域の人材を活用して赤米の種まきから育苗、豊作祈願祭(宮島大聖院とのつながり)、はやし田をしながらの田植え、赤米の育成観察、赤米の収穫、赤米の奉納・販売(宮島大聖院とのつながり)を行った。

② 「環境教育」に係わる活動

(1) 自然探検（主に第4学年）

新庄の家庭で使われている水の水源や川の水質を調べたり、パンジーを地域の方や保育園児と種から植えて育て調べたりすることを通して、ふるさとが豊かな自然に恵まれていることや植物の成長の不思議さに気付き、ふるさとへの愛着を高めた。

(2) ミミズコンポストの取り組み（主に児童会）

給食の残菜の有効活用であるミミズコンポスト活動を行った。児童会の中に位置づいている環境委員会が、残菜を毎日計量した後ミミズコンポストに運び、ミミズのえさにした。ミミズのし尿を定期的にとり、すぐ横にある学校園での肥料として活用した。活動を通して、資源の有効活用の観点から、自然環境を見つめ直すことができた。

(3) 太陽光発電パネルの観察（主に第4・第5学年）

一昨年、北広島町が学校校舎および体育館に太陽光発電パネルを設置した際、玄関内に発電量や削減した二酸化炭素を表示するモニターを置いた。今年度もモニターをもとに日々継続観察を行い、社会科の環境学習において、データの活用に役立てた。

③ 「食育」に係わる活動（主に第1・2・3学年）

1・2学年は、地域の野菜作り名人から夏野菜作りを学び、育て、自然を見直し、野菜の生長や生命力を体感した。また、保育所の園児とともにサツマイモを育て、保小の連携を図った。収穫したサツマイモを使って料理を作り、12月には「ありがとうの会」で感謝の気持ちを表した。

3学年は、新庄の畑で作られていたダイズについて関心を持ち、育てられていた地域の方から育て方を学び育てた。ダイズの加工を調べ、収穫したダイズを使い豆腐作りをした。1・2学年に同じく、12月の「ありがとうの会」で作った豆腐やおからを使った料理で、地域の方に感謝の気持ちを表した。活動全体を通して、地域の方の食に対する工夫や知恵、思いについて学んだ。

④「平和・人権」に係わる活動（主に児童会）

児童会に位置付いている運営委員会が主体になって行った。「ユネスコ世界寺子屋運動」の一環として、年賀状の書き損じはがきを全校児童に募集し、回収した。回収した葉書をもとに世界各国の恵まれない子ども達に還元する取り組みを通して、人権について考えることができた。



①（１）新庄のはやし田



①（２）赤米の販売



②（１）パンジーの苗植え



③ 豆腐作り



③ サツマイモの収穫



④ユネスコ世界寺子屋運動

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

地域の人材 (農事法人岩戸黒瀧, 真言宗御室派大本山宮島大聖院, 町づくり有限会社CC50, 新庄郷土芸術保存会, 民生児童委員, さくら農園, このほか新庄地域の方々多数), 北広島町立図書館関係図書, 小学社会 (日本文教出版4年・5年), せいかつ (教育出版1年・2年), ユネスコホームページ

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

学校全体で組織的かつ継続的にユネスコスクール活動に取り組むために、学校経営方針にユネスコスクールの活動に責任を持って取り組むことを明示し、「ESD全体計画」を作成している。各学年においては、特別活動や総合的な学習の時間、生活科、社会科の年間指導計画に、当校で指導すべきESD活動を記述している。その際、当校の大きな特色である「地域とのつながり」や当校が選択した上記の4観点である「伝統文化」「環境教育」「食育」「平和人権」が欠落しないようにESD担当者がチェックし、各担任に指導している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

組織的かつ継続的に活動を進めるために、校内研修で情報交換したり、活動を成功させるための入念な協議と準備を関係者が連携して行っている。また、年度末に県教育委員会指導主事を招聘し、指導と助言をいただき、来年度へのアクションを修正している。

地域の自然環境や教育資源の幅広い活用の仕方などを地域の関係者等と協議して、地域と地域のいろいろな団体と学校が連携し、協力して活動するネットワークの基盤を作っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- ① 学校評価児童・保護者アンケートをもとに学校評価自己評価を行い検証。
② 年度終了時には、地域や教育委員会等を招聘して、成果と課題についてワークショップ型での協議。

成果：「地域が好き」と肯定的に捉えている児童や「地域を愛する児童が増えた」と捉えている保護者が多くなった。

課題：学校の取り組みをさらに具体化させてESDの取り組みをさらにわかりやすくすること。また地域との連携を継続すること。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

児童の体験活動を学校ホームページ，学校便りに掲載し，新庄地域や全国に発信したり，中国新聞，地域ローカル放送「きたひろネット」を通して地域に発信している。これらの取り組みにより，地域の内外から当校に関心を持って見守ってくださる方々が増えた。

④ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

当校は地域の諸団体との連携は密であり，ひととひととの強いネットワークで結ばれている。地域以外では，当校職員がESDコンソーシアム研修会に参加し，当校の活動状況を報告するとともに，職員に研修報告を行った。

⑤ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

今年度は，学校行事が多くあり，交流時間の確保ができず，交流を見送った。

- ⑥ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

◎ESD諸活動を通して、地域との連携がいっそう強くなった。地域から学校への信頼がいっそう高まった。また、児童・保護者が地域のよさを再発見するとともに、地域を愛する気持ちがいっそう高くなった。
◎ESD諸活動を通して、教職員は地域の方々の教育力の高さを実感した。
◎今年度のESD関連カリキュラムを全職員で協働して行い、すべての行事を満足する形で終えることができた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

(当校の主な取り組み)

- 4月 ESD年間指導計画職員共有
食育の取り組み学級園づくり
赤米豊作祈願祭
- 5月 赤米の田植え・全校花田植え
運動会（はやし田披露）
- 6月 特別養護施設訪問（はやし田披露）
- 7月 新庄夜市（はやし田披露）
地域との連携（第1回ワークショップ実施）
- 9月 パンジーの種まき
赤米の稲刈り
- 10月 学習発表会（はやし田・南条踊り披露）
赤米プロジェクト出前授業
サツマイモの収穫
- 11月 おおあさふるさとまつり（はやし田披露）
宮島大聖院への赤米奉納・宣伝・販売
大豆収穫・豆腐作り
- 12月 地域の方に感謝の気持ちを伝える「ありがとうの会」開催
- 1月 ユネスコ世界寺子屋運動の取り組み
- 2月 地域との連携（第2回ワークショップ実施）
- 3月 まとめ
ESD年間指導計画修正

(通年)

ミミズコンポストの作成